



大天使聖ミカエル

2013-10月

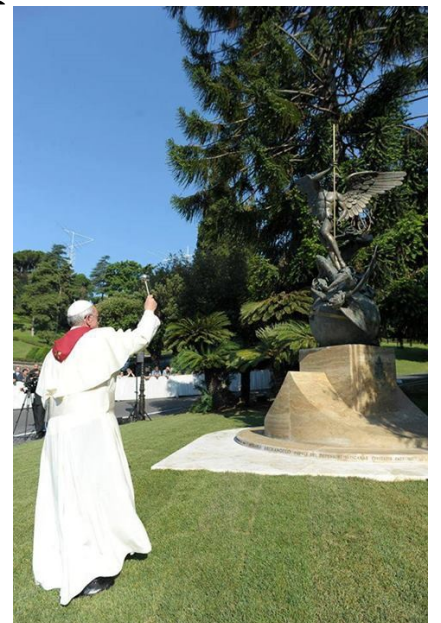


今日、私たちは大天使聖ミカエルの威厳を思い、ミサを捧げたいと思います。今の時代私たちは、これまでもまして聖ミカエルの助けを必要としています。公けの場であれ、また陰に隠れてであれ、神とその教会に対して行われる反抗的行為や、やみくもに批判しようとする世の風潮、また不信仰や不道德な行いがめずらしいことではなくなってきました。ルシファーの「いと高き者のようになろう」と語る、高慢で横柄な態度は今日、世界中で繰り返されています。2013年7月5日、この困難な状況のもと、引退されたベネディクト16世の隣りに座って、教皇フランシスはバチカン市を大天使聖ミカエルに捧げるための特別な祈りを朗読されました。教皇フランシスは言われました。「悪魔を剣で突き刺す聖ミカエルの像は私たちを反省と祈りに招いています。」そして「聖ミカエルは神の正義を立て直すために戦うのです。そして神の民を敵から、特に一段と力のある敵である悪魔から私たちを守ってくれるのです。」と説明されます。また教皇は言われました。「バチカン市を大天使聖ミカエルに捧げるにあたって、私たちを悪しき者から守り、その者を追い払ってくれるよう、聖ミカエルに願うのです。」この恐ろしい悪に対する救済策として、私たちは、ルシファーを倒して深淵へ追放することで栄光をすべて神に戻した天の栄光の支配者に、その助けを祈ることが求められているのです。

黙示録にこう書かれています。「さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、急に戦いを挑んだのである。」聖ヨハネは終わりの時の大きな争いについて語っていますが、それは天における始めの時の戦いを思い起させます。教会の教父たちによれば、聖書の中にその名前が記されていないことで、聖ミカエルについてしばしば疑問が生じているのです。教父



たちは聖ミカエルが、「命の木に至る道を守るために」エデンの園の門の前に立ったケルビムであろうとか、選ばれた民へ十戒を神が発布したときに仲介の後目を果たした御使いであろうとか、またあるいは、バラムの行く手に立ちふさがった御使いであろうと言っています。



ミカエルという名は私たちにこの栄光ある天使を尊ぶよう求めます。それは熱意と忠誠心の叫びなのです。その名は「だれが神のようであろうか」を意味しているからです。この名を聞いてサタンは震え上がります。なぜなら、反乱天使たちに輝くばかりの大天使が応戦することとなった、天に対しての反逆を思い起こさせるからです。聖ミカエルはその力が証明され、「神の軍の長であり、天の都市の最初の支配者で、他の天使たちが即座に服従の意を示すのはミカエルである」と知られこととなりました。天使たちはとても快く、また感謝の気持ちをもって聖ミカエルの優位性を認めたのです。なぜなら彼らは、恵みによる究極の救いと永遠の幸福は、神の次に聖ミカエルのおかげであると思っているからです。快く服従することで、彼らはミカエルからさまざまな任務を与えられています。彼らはミカエルのどんな小さな望みにも注意を向けます。というのも、聖ミカエルの中に、崇高なる主であり王である神のご意志による命令や掟を確認することができるからです。

歴史の流れの中で聖ミカエルは幾度か姿を現しています。19世紀後半、ローマ教皇レオ13世は幻を見ました。教皇がその幻を見ることになった状況については次のような説明がなされています。

ある日、主のいけにえのミサを捧げたあと、高齢の教皇は枢機卿たちと会議の席に着いていました。すると突然、教皇は意識を失い、床に崩れ落ちました。医師たちはそばに駆けつけましたが、教皇はすでに息を引き取ったのではないかと思いました。どうしても脈を取ることができなかつたからです。しかし、しばらくすると、教皇は意識を取り戻し、感情を高ぶらせ大声で叫びました。「ああ、私はなんと恐ろしい光景を目にすることになったのだろうか。」教皇は心の中で、教会に対する悪霊たちの恐るべき悪行とその奮闘するさまを見せられました。しかし、その恐怖のど真ん中で、栄光の大天使ミカエルの姿を見て元気づけられました。ミカエルは姿を現すと、サタンとその軍勢を地獄の深淵へ投げ返したのです。戦いはまだ終わっていません。今の時代はこれまでよりもっと、ミカエルの助けが必要なのです。

みなさん、ミカエルの名をよく呼び、保護を願い求めましょう。その保護のもと、私たちは悪の力に立ち向かい続けることができるのですから。栄光の聖ミカエル、どうか私たちを守ってください。

